" KIDS SMILE LABO JOURNAL "IS A FREE PAPER PUBLISHED BY NURSERY KIDS SMILE LABO
PUBLISH: KIDS SMILE LABO PUBLISHING EDIT: AZUMI SUGITA
WRITE: TAKASHI MORI / SATOMI HIRAMOTO / YURIKO SEKINE / YURIKO FUKUSHIMA / AYA SATAKE

"キッズ スマイル ラボ ジャーナル"

KIDS SMILE LABO が発行するフリーペーパー。普段 SNS でしか見られない保育園の子どもたちの様子や、子育てに関する情報等、最新情報をお届けします。

Kids smile labo Journal Vol.48

KIDS SMILE LABO JOURNAL *June*

アッサンブラージュ
～わたしだけのせかい～

今年度はじめてのアートの日。
今回の活動では、「アッサンブラージュ（寄せ集め）」という技法を使い、箱の中に自分だけの世界を表現しました。

導入の場面では、講師の方が自分の“世界”を詰め込んだ作品を紹介すると、それを見た子どもたちは目を輝かせながら、「かわいい！」「ハートつくりたい！」と、想像のスイッチが入ったように言葉が次々と飛び出してきました。
『まだ見たことのない世界を、箱の中で表現してみてください』という講師の言葉に、「車の世界」「宝石の世界」「水族館の世界」など､たくさんの“世界”が子どもたちの口からあふれ出しました。

製作が始まると、自分の使いたいものを手に取り、素材を貼りつけたり、色を重ねたり、形を組み立てたりと、じっくりと集中して取り組んでいました。
多くの子は、馴染みのある絵の具を手に取り、色付けからはじめ、色と色を混ぜ合わせ、色の変化を楽しみながら、箱の内側や外側に絵具で彩色していました。
針金や紐をリボンにしてみたり、散歩で拾ってきた宝物をつけたり、自分の好きな生き物や乗り物のイメージを膨らませながら、思い思いの“世界”が形になっていきます。

そんな中、「ぼく、やらない」と言った一人の男の子がいました。講師の方が、「提案通りじゃなくてもいいんだよ」と声を掛けると、自分の好きな魚や生き物が載っている素材を見つけ、それをきっかけにコラージュしていくことに夢中になっていました。最後には、魚の形を丁寧に切り抜いて、箱の中の生き物が見えるよう工夫された「海の世界」が完成していました。

完成した作品には「〇〇のせかい！」と、子どもたちが自らタイトルをつけ、満足そうに紹介してくれました。
箱の中には、それぞれの思いがぎゅっと詰まっていて、素材の組み合わせや色の選び方にも、一人ひとりの感性があふれた、そんな時間になりました。

text by Satomi Hiramoto

This is the page for the classes of children aged 3 to 5.
Our homeroom teachers have carefully crafted these class reports with great affection.
We invite you to enjoy reading about their journey.

Minamo Ozora Daichi

kidssmilelabo.com

@kidssmilelabo
@kidssmilelabo
KIDS SMILE LABO
@KIDS_SMILE_LABO

This page offers a glimpse into the daily lives of children aged 0 to 2.
We hope you enjoy these precious moments captured in the photos.

June

Nobana

自分だけの特別が嬉しいね

蒸し暑い日が増えてきましたが、2歳児クラスでは、今月から個人のリュックを使って散歩に出かけるようになりました。自分だけのリュック、自分だけの水筒を持てることに喜びを感じ、毎日張り切って支度をしています。

朝の身支度では、遊びに夢中でなかなか気持ちを切り替えられないこともあったのですが、保育者が「自分のリュック取りに行こう!キーホルダー見せてほしいな」と声をかけると、パッと表情が明るくなり、自分から準備をはじめる姿が見られます。

この効果がいつまで続くかはわかりませんが、「自分だけのもの」って、なんだかとても嬉しいものですよね。

小さな体で、まだ少し大きめのリュックを背負っている姿を見て、地域の方も「いいの背負ってるね、がんばってるね」と温かい声をかけてくださいます。そんな言葉も、子どもたちの自信や励みになっているのではと思います。

4月から比べても、ぐっと体力がついてきたと感じていますが、リュックを背負って歩くことで更にたくましくなっていることを感じます。

『じぶんのことはじぶんで』を目標に、水筒の準備、片付けなども子どもたちが自分で行っています。リュックのベルト部分も「やって」と大人に頼むこともありますが、まずは自分で挑戦してみようねと声をかけながら、一緒に手伝っています。ぜひご家庭でも、お子さんと一緒にやってみてください。

子どもたちは「今度はリュックにお弁当を入れて遠足に行くんだ!」と張り切っています。そんな楽しい計画も、今後取り入れていけたらと思っています。

text by Yurika Sakiyama

Soyokaze

いろいろな気持ち
～こころが育つとき～

そよかぜクラスになり、少しずつ自分でできることが増えてきました。下駄箱やロッカーには自分のマークが貼ってあり、それを覚えて、自分で荷物の出し入れができるようになってきています。

おうちの方が準備してくれた着がえボックスを手で押してロッカーまで運び、自分でしまうことができると、とても満足そうな表情を見せてくれます。お友だちを手伝ってあげる姿も見られます。手伝ってもらうと顔を見合わせて嬉しそうにする姿は微笑ましいものです。

一方で、それがトラブルになることもあります。

「やってあげたい」という気持ちと、「自分でやりたい」という気持ち。さっきまではやりたくなかったけれど、お友だちに触られたらやっぱり自分でやりたくなったり。いろいろな気持ちが芽生えて入り混じり、手が出てしまったり、口が開いてしまったりすることもあります。

そんな子どもたちの様子に、保育者の瞬発力が試されることもありますが、自分の気持ちをこんなに素直に表現できるってすごいことだと感じています。だからこそ、その気持ちをしっかり受け止めたいと思っています。

その上で、言葉で伝えてみることを提案しています。上手くいかないことの方が多いですが、自分の気持ちを言葉で言えた時には、「すごいね!お口で言えたね」と大いに喜んで見せます。

すると子どもたちの表情もふっとゆるみ、「これでいいんだ」と感じてくれているように思います。

いろいろな気持ちが芽生え、表現しながら成長していく子どもたちと、向き合い、楽しみながら日々を過ごしていきたいと思います。

text by Yuriko Fukushima

Komorebi

お気に入りの場所
～木陰広場での日々～

6月に入り、こもれびクラスには3人の新しいお友達が仲間入りし、部屋の中は笑い声や泣き声に包まれ、毎日賑やかに過ごしています。

そんなこもれびクラスが最近毎日のように散歩で訪れているお気に入りの場所が「木陰広場」です。

はじめは慣れない場所や芝生の感触に不安を感じて泣いてしまったり、その場から動けないことが多かったのですが、繰り返し木陰広場に行くことで少しずつ慣れていき、今では広場に到着すると「はやくあそびたいよー!」という気持ちが全身から伝わってくるような、わくわくした表情でベビーカーから降りる順番を待っています。

芝生に降りると裸足になって元気いっぱいに探索を開始!

足元に咲いているシロツメクサやたんぽぽを摘んでお皿に集める子、広場にあるタイヤで「いないいないばあ」を楽しむ子、ハイハイで斜面の登り降りに挑戦する子。それぞれの好きな遊びを見つけて、日々さまざまな活動を楽しんでいます。

木陰広場は、春から夏にかけては色とりどりの草花が咲き、バッタやてんとう虫、蝶々などたくさんの生き物が姿を見せてくれます。秋になると木の実がたくさん実り、冬には落ち葉のカーペットができるなど、季節ごと魅力がたくさん詰まった場所です。その魅力を存分に味わいながら、子どもたちと共にさまざまな活動を楽しんでいきたいと思います。

text by Aya Satake

みなもおおぞらだいち No 梅しごと

text by satomi hiramoto

梅シロップ

ラボで毎年恒例となっている梅シロップづくり。今年も、厚木市飯山にある農家さんからいただいた青梅を使って、子どもたちと一緒に取り組みました。

青梅を子どもたちに見せると、「うめだ」「また、つくるの？」「おいしかったよね」と、昨年のことを覚えていた子もいました。梅しごとの記憶が子どもたちの中にしっかりと残っていることを感じ、わくわくとした気持ちが子どもたちに広がっていくようでした。

青梅の手ざわりや香りを楽しみながら、友だちと一緒に一つひとつ丁寧に洗い、ヘタを取って、氷砂糖とともに瓶に詰めていきました。友だちと声をかけ合いながら作業する子どもたちの姿からは、取り組む楽しさや仲間との一体感が伝わってきました。

翌日、青梅を入れた瓶の表面に汗をかいている様子に気づいた子どもたちは、「シロップになってる！」「はやくのみたいな」と目を輝かせていました。お昼寝明けには瓶をやさしくゴロゴロと転がし、氷砂糖が全体に行き渡るようにしました。すると、まだ眠っていた子もむくむくと起き上がり、「自分もやりたい」と手をのばしていました。

2歳児クラスの子どもたちも、お兄さんお姉さんたちの様子に興味津々で近づき、一緒に“ゴロゴロ”の時間を楽しんでいました。

子どもたちは毎日瓶を覗きこみながら、完成を今か今かと楽しみにしています。「かき氷にかけたい！」「おさんぽに持っていってのみたいな」と、梅の香りとともに期待が膨らんでいます。みんなで育てた梅シロップ、どんな味になるか楽しみです。

青梅1キロ　氷砂糖1キロ

うめのおへそみつけたよ！

ひとつひとつ丁寧に洗ったよ

みててね、こうやって取るんだよ

うめと氷砂糖を順番に入れて…

ゴロゴロ～ゴロゴロ～

ゴロゴロ～ゴロゴロ～

午睡明け、のばなクラスの子どもたちもゴロゴロ転がすお手伝いをしました♪

完熟しているのでつぶさないようにやさしくそーっと

梅のおへそと水分を取り除いたらジップロックに入れて粗塩をいれていきます

みんなで力を合わせてよいしょっジップロックをひっくり返します

梅ぼし

完熟梅1キロ　粗塩130g

今年は、梅シロップに加えて梅干しづくりにも挑戦しました。

アトリエの壁には、プラスチック容器で大切に保存していた1つの梅がありました。日ごとに梅の色が少しずつ変わっていく様子を観察しながら、梅干しづくりをする日を心待ちにしていました。

梅シロップ作りの時には青かった梅も、日が経つにつれ黄色く色づき、完熟梅と変身！

ころころとした完熟梅を手に取り、シロップづくりの時と同じように、一つひとつ丁寧に洗ってから、ペーパータオルで水気を拭き取り、竹串を使ってヘタをとりました。青梅の時よりもやわらかくなった梅をそっとやさしく手に包みこむ姿が印象的でした。

「シロップは氷砂糖だったけど、梅干しはお塩なんだね」と、使う材料の違いにも気づきながら、梅と塩を交互にジップロックに詰めていきます。梅を漬けてからは、1日3回、ジップロックをひっくり返す作業が続きます。クラスごとに取り組む中で、「どうなってるかな？」「お水（梅酢）が出てきたよ！」と、毎日の変化を楽しみながら観察する姿が見られました。

このあと、土用干しをして、ゆっくり時間をかけて梅干しが完成していきます。

今回のように“すぐにできあがらない”体験を通して、食べ物を大切にする気持ちや、待つことの楽しさを感じてほしいと思っています。また、昔ながらの保存食にふれることは、日本の食文化や季節の知恵を伝える大切なきっかけにもなります。これからも季節の恵みや手作りの喜びを、子どもたちと一緒に感じられる時間を、大切にしていきたいと思います。

★今年も立派な梅を厚木市栗農園沼田さんより購入いたしました。

保育士の私が見た世界 Vo.1

たたかいごっこが教えてくれること

憧れのヒーローになりきり、かっこいい武器を作って遊ぶ「たたかいごっこ」。

私自身も子どもの頃に夢中になった遊びで、今では園の子どもたちや自分の息子たちとも一緒に楽しんでいます。「強くなりたい」「あんな風にかっこよくなりたい」—そんな憧れから、子どもたちは自然と工夫し、創造し、時にはちょっとした勇気も湧いてくる。ごっこ遊びの中には、そんな前向きなエネルギーがあふれています。

さて、この遊びには〝相手〟の存在が欠かせません。相手が「仲間」か「敵」かで遊びの展開も変わりますし、自分の気持ちだけで突き進んでしまえば、相手を傷つけてしまうことだってあります。特に、たたかいごっこを始めたばかりの子どもにとっては、「どこまでならいいか」「これは相手が嫌かもしれない」という〝加減〟の感覚はまだ未熟です。その基準を知っていくのは、誰かが泣いたときや、思いがすれ違ったとき。そうした経験を通して、ようやく「やりすぎてしまったんだ」と気づいていくのだと思います。

大人相手では許されていた力加減も、子ども相手では通用しない。だから私は、子どもと遊ぶときにこそ、「痛い」「それは嫌だ」と、正直に伝えるようにしています。大人だからこそ、伝える力を手渡す役割があると思うのです。

たたかいごっこは単なる力比べではなく、気持ちのやりとりの積み重ねです。他者と関わる力、感情を調整する力、そして「相手がいるからこそ楽しい」という感覚。そのすべてが遊びの中で育まれていくのだと、子どもたちの姿から教えられています。そんな育ちをそっと支えられるよう、私たち保育者も一緒に、子どもたちの遊びに寄り添っていきたいと思っています。

保育園KIDS SMILE LABO　園長　森 誉
子どもたちから〈もりもり〉の愛称で親しまれている、KIDS SMILE LABOの園長。
5歳と2歳、二児の父でもあり、保育と子育てに日々真摯に向き合っている。
趣味は写真撮影で、愛用のカメラはNikon Zf。
もりもりの生み出す、優しくて愛で溢れる世界は下記QRコー